

みんなのポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

3. 展示

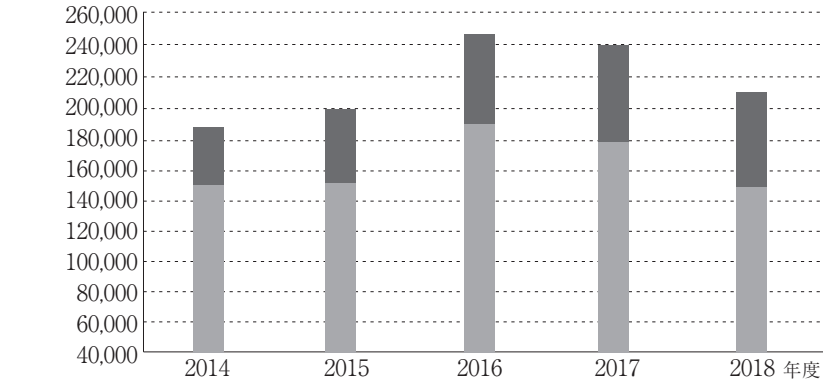
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009598

3 展 示

入館者数

●2018年度総観覧者数（共催展、巡回展含む） 232,783人

●入館者数（5年間。共催展、巡回展除く）



合計（人）	2014	2015	2016	2017	2018 年度
団体	37,684	46,176	52,744	59,512	63,130
個人	149,931	153,100	193,761	179,964	153,028

本館展示

●展示専門部会

本館展示新構築にかかわる支援・連絡調整と本館展示の運営にかかわる連絡調整、ならびに特別展・企画展の企画内容の点検支援・連絡調整を行う組織として、文化資源運営会議のもとに展示専門部会を置く。同部会は本館展示新構築総括チームと特別展・企画展ワーキング・グループより構成する。なお、本館展示の運営・新構築にかかわる案件の全体での検討の場として、随時、本館展示プロジェクトリーダーからなる拡大展示専門部会を開催する。

●本館展示プロジェクトチーム

	代表者	構成メンバー（五十音順）			
オセアニア展示	ピーター・マシウス	菊澤律子	丹羽典生	林 勲男	
アメリカ展示	伊藤敦規	岸上伸啓* 關 雄二	齋藤 晃 八木百合子	齋藤玲子 荒川史康* (2017.11.1～2018.6.30)	鈴木七美 鈴木 紀
ヨーロッパ展示	新免光比呂	宇田川妙子	森 明子		
アフリカ展示	三島禎子	飯田 卓	池谷和信	川瀬 慈	吉田憲司
西アジア展示	菅瀬晶子	相島葉月	上羽陽子	西尾哲夫	山中由里子
音楽展示	福岡正太	川瀬 慈	笹原亮二	寺田吉孝	
言語展示	菊澤律子	西尾哲夫	吉岡 乾	相良啓子	
南アジア展示	南 真木人	上羽陽子 古川不可知*	菅野美佐子* 松尾瑞穂	竹村嘉晃* 三尾 稔	寺田吉孝 吉岡 乾
東南アジア展示	桒永真佐夫	信田敏宏	平井京之介	福岡正太	
中央・北アジア展示	藤本透子	池谷和信	大石侑香*	辛嶋博善*	小長谷有紀 寺村裕史
東アジア展示（朝鮮半島の文化）	太田心平				
東アジア展示（中国地域の文化）	河合洋尚	卯田宗平	韓 敏	小長谷有紀	野林厚志
東アジア展示（アイヌの文化）	齋藤玲子	岸上伸啓*	北原次郎太*	吉田憲司	
東アジア展示（日本の文化）	日高真吾	池谷和信 寺村裕史	卯田宗平 野林厚志	笹原亮二 廣瀬浩二郎	菅瀬晶子 南 真木人
情報・インフォメーション	野林厚志	飯田 卓 丸川雄三	伊藤敦規	寺村裕史	廣瀬浩二郎 福岡正太
イントロダクション展示		※2018年度は、展示情報高度化事業実施部会が担当する。			

*は、兼任教授、特別客員教員、機関研究員等を示す

●特別展・企画展ワーキング

開催を予定する各特別展・企画展の実行委員会、本館展示プロジェクトリーダー（1～2名）

●本館展示の新構築（展示チームは一般公開日現在）

・アフリカ展示

一般公開 2009年3月26日～

アフリカ展示チームリーダー 飯田 卓

アフリカ展示チームメンバー（館内）池谷和信 川瀬 慈 竹沢尚一郎 三島禎子 吉田憲司

内容

人類誕生の地とされるアフリカは、常に外部世界と結びつきながら変化を重ねてきた。私たちが、現在目にするアフリカ大陸の中の、文化や言語の多様性は、そうした変化の結果にほかならない。新たに構築したアフリカ展示では、人びとの「歴史を掘り起こす」営みに目を向けるとともに、現在のアフリカに生きる人びとの生活のありさまを4つの「動詞」（憩う・働く・装う・祈る）のコーナーに分けて紹介する。

・西アジア展示

一般公開 2009年3月26日～

西アジア展示チームリーダー 山中由里子

西アジア展示チームメンバー（館内）上羽陽子 菅瀬晶子 西尾哲夫

内容

中東ともよばれる西アジアの人びとは、自分たちが暮らす地域をマシュリク（日出ずる地）とよび、マグリブ（日没する地）と呼ばれる北アフリカと深い関係を保ってきた。乾燥地帯が大部分を占め、遊牧を生業とする人びとが移動する一方、バグダードやカイロなどでは古来より都市文化が栄えてきた。多くの住民はムスリムだが、ユダヤ教やキリスト教発祥の地でもある。新たに構築した西アジア展示では、地域規模の変動の時代に移りゆく人びとの暮らしを紹介する。

・音楽展示

一般公開 2010年3月25日～

音楽展示チームリーダー 福岡正太

音楽展示チームメンバー（館内）川瀬 慈 笹原亮二 寺田吉孝

内容

私たち人類は、音や音楽によって意志や感情をつたえ、自分の位置を知り、訪れたことのない場所や過ぎ去った時に思いを馳せ、心を奮い立たせたり慰めたりしてきた。また、神仏や精霊など見ることのできない存在と交わってきた。この展示では、音や音楽と私たちの存在とのかかわりを、世界各地の「太鼓」、「ゴング」、「チャルメラ」、「ギター」等の例を通して考える。

・言語展示

一般公開 2010年3月25日～

言語展示チームリーダー 庄司博史

言語展示チームメンバー（館内）菊澤律子 西尾哲夫 八杉佳穂

内容

音声や身ぶりを媒体とすることは、高度に発達した伝達手段で、感情から科学的な知識まで多くの情報を伝えることができる。文化の多様性を反映すると同時に、人間のもつ認知能力や創造性などを生みだすことは、人類のもつかけがえのない資産である。言語展示では、「言葉を構成する要素」、「言語の多様性」、「世界の文字」というテーマを中心に構成する。

・オセアニア展示

一般公開 2011年3月17日～

オセアニア展示チームリーダー ピーター・マシウス

オセアニア展示チームメンバー（館内）印東道子 菊澤律子 久保正敏 小林繁樹 須藤健一 丹羽典生
林 勲男

内容

海がほとんどの面積を占めているオセアニアには、大小数万をこえる島々が点在している。そこには、発達した航海術をもち、根栽農耕を営む人々が暮らしてきた。「移動と拡散」「海での暮らし」「島での暮らし」では、資源の限られた島環境で、さまざまな工夫をして生活してきた様子を展示している。「外部世界との接触」「先住民のアイデンティティ表現」では、外の世界と出会うなかで、人びとが伝統文化をどのように継承、発展させてきたかを紹介する。

• アメリカ展示

一般公開 2011年3月17日～

アメリカ展示チームリーダー 鈴木 紀

アメリカ展示チームメンバー (館内) 伊藤敦規 岸上伸啓 齋藤玲子 鈴木七美 齋藤 晃 關 雄二
八杉佳穂

内容

広大なアメリカ大陸には、極地から熱帯雨林まで、さまざまな自然環境が見られる。人びとは、それぞれの環境に応じた生活を営んできた。一方で、ヨーロッパ人による征服と植民の歴史を経験したこの地には、日常生活の隅々まで、外来の文化が浸透していった。ここでは衣、食、宗教に焦点をあて、アメリカ大陸の多様性と歴史の重なりを明らかにするとともに、土着の資源に現代的価値を見出そうとする芸術家や工芸家のすがたを紹介する。

• ヨーロッパ展示

一般公開 2012年3月15日～

ヨーロッパ展示チームリーダー 宇田川妙子

ヨーロッパ展示チームメンバー (館内) 庄司博史 新免光比呂 森 明子

内容

ヨーロッパは、16世紀から20世紀にかけて、キリスト教や近代の諸制度をはじめ、さまざまな技術や知識を世界各地に移植した。現代、この流れが逆転するなかで、世界中からの移民とともに、彼らの文化も社会の一部となりつつある。ここでは、時間の流れに注目しながら伝統的な生活様式と宗教、近代の産業化、さらに現代の新しい動きが層をなしてヨーロッパをつくりあげていることを示している。

• 情報・インフォメーション

一般公開 2012年3月15日～

情報・インフォメーションチームリーダー 野林厚志

情報・インフォメーションチームメンバー (館内) 飯田 卓 伊藤敦規 田村克己 廣瀬浩二郎 福岡正太

内容

展示資料の情報を検索して調べることのできる「リサーチデスク」、研究者が取り組んでいる調査を紹介する「研究の現場から」、展示資料を見てさわって理解する「世界をさわる」の3つのコーナーを通して、みんなの研究や展示をより詳しく知ることができる。展示場で見た資料についてもっと知りたい、みんなの研究者って何を調査しているの、モノと身近に接してみたいという探究心を満たし、知識をさらに深める場としてご活用いただきたい。

• 東アジア展示 (日本の文化)

一般公開 「祭りと芸能」「日々の暮らし」 2013年3月22日～

「沖縄の暮らし」「多みんぞくニホン」 2014年3月20日～

東アジア展示(日本の文化)チームリーダー 日高真吾

東アジア展示(日本の文化)チームメンバー (館内) 池谷和信 近藤雅樹 笹原亮二 庄司博史 菅瀬晶子
野林厚志 出口正之

内容

北海道から沖縄県まで、南北に細長い日本列島は、多様な自然に恵まれています。こうした環境のなかで、隣接する諸文化と影響しあいながら、さまざまな地域文化を展開してきた。また、近年では多くの外国人が私たちの隣人として生活をともにしている。ここでは、「祭りと芸能」「日々の暮らし」「沖縄の暮らし」「多みんぞく

ニホン」という4つの角度から、日本文化の様相を展示している。

• 東アジア展示（朝鮮半島の文化）

一般公開 2014年3月20日～
東アジア展示(朝鮮半島の文化) チームリーダー 朝倉敏夫
東アジア展示(朝鮮半島の文化) チームメンバー (館内) 太田心平

内容

朝鮮半島の人びとは、外部の民族から影響を受けつつも、独自の文化を育んできた。有史以前は東シベリアの諸民族から、その後は中国から取り入れた文化要素を、独自のものに再編し、世界に例を見ないほど高度に統合された文化を獲得してきた。近代には日本に植民地支配され、独立後にはふたつの分断国家として急速な近代化を進めた。そして現代には、積極的に世界に進出する韓国人や、コリア系の海外生活者の姿も見られる。こうした文化の歴史的な重なりや躍動性を、精神世界、衣食住、あそびと知をテーマに紹介する。

• 東アジア展示（中国地域の文化）

一般公開 2014年3月20日～
東アジア展示(中国地域の文化) チームリーダー 塚田誠之
東アジア展示(中国地域の文化) チームメンバー (館内) 韓 敏 小長谷有紀* 田村克己 野林厚志
横山廣子

内容

中国地域では、広大な面積と高低差のある地形がうみだす多様な自然環境のもと、さまざまな民族文化が育まれてきた。漢族が人口の90%以上を占め、平野部を中心に全国に居住している。大陸の55の少数民族は、おもに西南、西北、東北地方の高地や草原に居住しており、台湾には漢族のほか先住のオーストロネシア系民族が居住している。また、世界各地に、中国を故郷とする華僑・華人がくらしている。多様な生活環境から生みだされたさまざまな民族の文化を、歴史や地域性をふまえ、生業、装い、楽器、住居、工芸、宗教と文字、漢族の婚礼や祖先祭祀、台湾の原住民族、華僑・華人をテーマに紹介する。

• 南アジア展示

一般公開 2015年3月19日～
南アジア展示チームリーダー 三尾 稔
南アジア展示チームメンバー (館内) 上羽陽子 杉本良男 寺田吉孝 松尾瑞穂 南 真木人 吉岡 乾
竹村嘉晃* 豊山亜希*

内容

南アジア地域は、北部の山岳地帯から西はアラビア海沿岸、東はベンガル湾沿岸にいたるさまざまな自然環境のもと、多様な宗教や文化、生活様式をもつ人びとが共存しあう知恵を育んできた。経済発展が著しい現代においても、その知恵は保たれている。この展示では、宗教文化や生業・工芸の多様性、都市を中心とした活気あふれる大衆文化、またグローバル化のなかで花ひらく染織文化のすがたを紹介する。

• 東南アジア展示

一般公開 2015年3月19日～
東南アジア展示チームリーダー 信田敏宏
東南アジア展示チームメンバー (館内) 榎永真佐夫 佐藤浩司 平井京之介 福岡正太 吉田ゆか子*

内容

森と海に囲まれた東南アジア。熱帯・亜熱帯の気候にくらす人びとは、早朝の涼しい時間から働きはじめ、40度近くに達する日中は屋内でなどをして暑さをしのぐ。夕方、スクールが通り過ぎた後は、少し暑さが和らぎ、人びとは買い物や農作業に出かける。日が落ちて涼しくなると、友人や家族と屋台に出かけたり、演劇を見たりして余暇を楽しむ。本展示場では、「東南アジアの1日」をテーマに、その多彩な民族文化を紹介する。

• 中央・北アジア展示

一般公開 2016年6月16日～
中央・北アジア展示チームリーダー 藤本透子

中央・北アジア展示チームメンバー (館内) 池谷和信 佐々木史郎 寺村裕史 小長谷有紀*

内容

中央・北アジアは、ユーラシア大陸の北東部を占める広大な地域である。古くから東西南北をむすぶ交渉路としての役割を担い、多様な民族が行き交った。20世紀に社会主義を経験した後、市場経済に移行し、グローバル化の波にさらされながら伝統を再評価する動きがみられる。「自然との共生」「社会主義の時代」というふたつの共通テーマをふまえて、「中央アジア」「モンゴル」「シベリア・極北」の3つの地域に生きる人びとの今を紹介する。

・アイヌの文化展示

一般公開 2016年6月16日～

アイヌの文化展示チームリーダー 齋藤玲子

アイヌの文化展示チームメンバー (館内) 伊藤敦規 岸上伸啓 佐々木史郎 吉田憲司 北原次郎太*

内容

アイヌは、北海道を中心に日本列島北部とその周辺に暮らし、寒冷な自然環境のもとで独自の文化をはぐくんできた先住民族である。江戸時代に幕府による支配が始まり、明治時代に同化がすすめられると、アイヌは差別を受け生活に困るようになった。しかし近年、日本政府はその歴史的事実を認め、アイヌ民族を尊重した政策に取り組みはじめた。ここでは、伝統を継承しつつ、あらたな文化を創造する人びとの姿を紹介する。

*併任教授、客員教員、特別客員教員、機関研究員等を示す

特別展示・企画展示など

●特別展示

開館40周年記念特別展「太陽の塔からみんぱくへ——70年万博収集資料」

会 期 2018年3月8日(木)～5月29日(火)

会 場 特別展示館

主 催 国立民族学博物館

協 力 朝日新聞社、大阪府、一般社団法人関西環境開発センター、京都新聞社、産経新聞社、一般財団法人千里文化財団、日本経済新聞社

後 援 毎日新聞社、読売新聞社

入場者 40,865名

実行委員長 野林厚志

実行委員 (館内) 日高真吾、平井京之介、伊藤敦規、卯田宗平、川瀬 慈、新免光比呂、鈴木 紀、丹羽典生、南真木人、三島禎子、吉岡 乾、内田吉哉

内容

1970年の大阪万博では太陽の塔の地下空間に、世界の民族資料が展示されました。それらは、1968年から1969年にかけて、「日本万国博覧会世界民族資料調査収集団 (EEM)」が収集したもので、民博開館時の主要な収蔵品となりました。本展では、EEMの集めた世界の諸民族の仮面、彫像、生活用具を展示し、収集活動の即席やコレクションの生い立ちを紹介するとともに、60年代後半から70年代にかけて、世界が大きく動いていく状況のなかでの民族文化や地域社会の様相を描き出しました。

「工芸継承——東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」

会 期 2018年9月13日(木)～11月27日(火)

会 場 特別展示館

主 催 国立民族学博物館

共同企画 東北歴史博物館

共 催 金沢美術工芸大学

特別協力 静岡文化芸術大学

協 力 株式会社三英、一般財団法人千里文化財団

後 援 朝日新聞社、京都新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社、毎日新聞社、読売新聞社

入場者 22,881名

実行委員長 日高真吾

実行委員 (館内) 園田直子、寺村裕史

(館外) 小谷竜介(東北歴史博物館)、今井雅之(元東北歴史博物館)、永山広樹(静岡文化芸術大学)、
加藤謙一(金沢美術工芸大学)、北村 繁(漆芸家)、永山雅大(東北工業大学)

内容

日本における工芸の近代化、産業化の推進と東北地方の工芸業界の発展を推進した国立工芸指導所は、まさに日本におけるインダストリアルデザインの原点の一つです。本展では、世界にはこる日本の工芸品が、国立工芸指導所の精神を受け継ぎつつ、どのように世界に挑戦するのか。このような点に着目し、これまでの工芸、これからの工芸を考えた展示となりました。

●企画展示

「アーミッシュ・キルトを訪ねて——そこに暮らし、そして世界に生きる人びと」

会 期 2018年 8月23日(木)～12月25日(火)

会 場 企画展示場

主 催 国立民族学博物館

協 力 ネブラスカ大学リンカーン校インターナショナルキルトスタディセンター&ミュージアム、エリザベスタウン大学ヤング再洗礼派敬虔派研究センター、ゴーシェン大学メノナイト歴史図書館、アメリカンキルトスタディグループ

入場者 62,356名

実行委員長 鈴木七美

実行委員 (館内) 藤本透子

(館外) 野村奈央(埼玉大学)、踊 共二(武蔵大学)、大藪千穂(岐阜大学)、中 朋美(鳥取大学)

内容

プレーン・ピープル(簡素な人びと)とも呼ばれるアーミッシュが無地の布をパッチワークしつくるベッドカバーは、あざやかな色合いと幾何学模様から生まれるデザインや細やかなステッチで20世紀後期に注目を集めました。特に、厳格に教会コミュニティを守ろうとするオールドオーダー・アーミッシュは、現在も馬車を使用し公共の電気を引かず、公教育の期間を制限しています。世界から孤立したようにみえる人びとは、どのように環境や周囲と交流してきたのでしょうか。本展示では、みんなくコレクションを素材として、キルトに織りこまれた日々の暮らしや物語、キルトが結ぶ世界との交流をたどりました。

●巡回展示

「ビーズ——つなぐ・かざる・みせる」

会 期 2018年 9月22日(土)～11月25日(日)

会 場 岡山市立オリエント美術館

担当者 池谷和信

内容

2017年 3月～6月に本館特別展として開催した「ビーズ——つなぐ・かざる・みせる」展を、岡山県の岡山市立オリエント美術館にて巡回展示しました。

「工芸継承——東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」

担当者 日高真吾

内容

本館で開催した特別展「工芸継承——東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」(2018年 9月13日～11月27日)を巡回展示しました。

2018年12月 6日(木)～12月19日(水) 静岡文化芸術大学

2019年 1月11日(金)～2月28日(木) 金沢美術工芸大学

●共催展示

「国立民族学博物館コレクション 貝の道」

会 期 2018年 6月23日(土)～9月 2日(日)

会 場 神奈川県立近代美術館

担当者 池谷和信

内容

民博のコレクションから、世界中のさまざまな民族によって作られた貝細工約160点を展示しました。

展示関連出版物およびプログラム

●本館展示

国立民族学博物館展示案内（英語版）

発行日 2018年12月28日

●特別展示

「ビーズ——つなぐ かざる みせる」（再版第2版）

発行日 2018年10月24日

編 者 池谷和信

発 行 国立民族学博物館

「太陽の塔からみんぱくへ——70年万博収集資料」

発行日 2018年3月8日

編 者 野林厚志

発 行 国立民族学博物館

「工芸継承——東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」

発行日 2018年9月13日

編 者 日高真吾 小谷竜介

発 行 国立民族学博物館

●ビデオテープ

「ただいまオンエア——ソニンケ民族の文化運動と地域ラジオ」（番組番号1753）

制作監修：三島禎子

西アフリカの小さな地域ラジオが開催する文化週間の取材をとおして、多民族の連帯と地域の開発を目指す人びとの運動を紹介します。

「私たちが主役——文化週間を支えるソニンケの女たち」（番組番号1754）

制作監修：三島禎子

女性達はラジオ局の先導で小さな経済活動を営んでいます。ラジオ局主催の文化週間は女性グループによる伝統文化の紹介の場です。

「グリオは語る——今と昔をつなぐなりわい」（番組番号1755）

制作監修：三島禎子

西アフリカのグリオは、昔から歴史や文化など社会の記憶を歌と音楽、踊りで語り継ぐ専門の人びとです。

●研究用映像資料

“Revisiting Batulecaur after 34 Years: A Village of Musicians in Nepal”（番組番号7242）

制作監修：南真木人

A research team from Minpaku visited the village of musicians in Nepal in 2016 to find the whereabouts of those who were first documented in 1982.

“Crossing over the Arirang Pass-Zainichi Korean Music”（番組番号7243）

制作監修：寺田吉孝

The complex identities of Zainichi Koreans are expressed by their music, through which they negotiate with their past and present situations.

「아리랑 고개로 넘어간다 —— 재일 코리안 음악 (アリラン峠を越えていく——在日コリアンの音楽)」(番組番号7245)

制作監修：寺田吉孝

재일코리안 음악에는 그들의 역사와 삶이 비추어지고 있다. 과거를 알고 미래를 생각하기 위한 음악 다큐멘터리 영화.

「ただいまオンエアー——ソニンケ民族の文化運動と地域ラジオ」(番組番号7246)

制作監修：三島禎子

西アフリカの小さな地域ラジオが開催する文化週間の取材をとおして、多民族の連帯と地域の開発を目指す人びとの運動を紹介します。

「常ならざる音——耳を通して異界とつながる」(番組番号7247)

制作監修：山中由里子

音は想像力を刺激し、カミサマ、精霊といった見えない力に人間が働きかける祭や神事において、重要な役割を果たしています。

「カトマンドゥのサーランギ奏者たち」(番組番号7248)

制作監修：南真木人

かつて楽師カーストのガンダルバのみが弾いてきた弓奏楽器サーランギ。ツーリズムと出会い、変化する演奏の形や生業を描きます。

●「みんなく電子ガイド」プログラム数 (2019年3月31日現在)

展示プロジェクト地域	プログラム数			
	日本語版	中国語版	英語版	韓国語版
オセアニア	23	23	23	23
アメリカ	27	27	27	27
ヨーロッパ	12	12	12	12
アフリカ	17	17	17	17
西アジア	16	16	16	16
南アジア	40	40	40	40
東南アジア	32	32	32	32
中央・北アジア	30	30	30	30
東アジア				
朝鮮半島の文化	47	47	47	47
中国地域の文化	39	39	39	39
アイヌの文化	10	10	10	10
日本の文化	35	35	35	35
音楽	0	0	0	0
言語	0	0	0	0
総 計	各 328			